

27. 防災に関心を持つことは、これから生きるためにつながる

自然災害に備えるということは、安全で安心な暮らしを続けていくためには関心を持って継続した備えが必要なのは当然です。自然災害は毎年、どこかで発生して多くの被害と犠牲者を出しており、まったくもって不要なエネルギーを消費しています。完全に災害をなくすことは不可能ではありますが、より効果的な備えと情報の共有は進めていく必要があります。防災は多岐に亘っているために、様々な知恵と工夫がなされて、意識の浸透を図るべく多くの方法で行われていますが、それを継続的なこととして個人、地域に浸透しているかというといまだの感がします。

それには、緊急性や知識を蓄えて行動化するというような方法や実感が身につかないということもあるような気がします。つまり、目に見えての効果判断、評価ができないこと、自然災害の対応は行政がすべきこと、どこにどのようなことがいつ起きるのかわからないのに何を備えるのか、知識がどう行動に結びつくのかが実感できない、起きた時点で対応するのが実際的である、などの意見を聞きます。

防災は、ハード対策とソフト対策があって、特に最近はソフト対策により関心度が高まってきています。そのために、地域コミュニティの形成や地域知の醸成という面で様々な取り組みがなされていますが、なかなか根づくところまでに至らず一過性になったりしています。この大きな要因は地震や津波、土砂災害といったものをテーマにして矮小化しているためかもしれません。

そのために、極端に言えば、そのような自然災害の影響がないところ探しに、走るような心理が出てきそうな気さえします。自然災害は、自然現象のみが要因ではなく、私たちの暮らし方に大きく関係している、ということを知覚する必要があります。これへの関心が次世代の暮らしの維持継続に関連する、ということを知ってほしいと思っています。

まさに、今われわれが挑戦しているところのSDGsであり、危機意識を持って暮らし方を見直すということと通じているということだと思います。災害の影響を大きくしないですむ暮らし方、それこそ投資効果が高く自然と共生できる持続可能な社会を維持することができる、ということを知覚することが大事になると考えています。防災は、決して自然災害が起きないようにしたいと願いつつ、我々の暮らし方が災害発生の要因にならないようにすることこそが、防災であるということを知覚していく必要があります。

災害はまさにあらゆるものとの接触面があつての反応物ですので、いまSDGsに示されたテーマを実践することが、誰でもできる防災への一歩であると考えています。気づいていないものに気づくことも、防災になるということを知覚して伝える必要があると思っています。